

ベトナム ホーチミン

下平 眞理

十八年ぶりにホーチミンの空港に降り立った。十八年前、日本企業がベトナムに進出を始めた時期で、中堅建築会社勤務の知人が駐在員として赴任、今後のベトナムの発展を見越して事務所の開設をしようとしていた。茶褐色で水草が浮き流れる肥沃なサイゴン川のほとりに、入口には検問所がある駐在員が住むアパート群があり、テニスコート、プール、ランドリーハウス、しゃれたレストランが完備されており、このゲストルームに滞在した。この一角は喧騒の街中とは別世界であった。

そして今年の夏、小パリと呼ばれたフランス統治時代に建設されたサイゴン大教会、中央郵便局を眼下に望む、大通りに面しているホテルに宿泊。凄まじい排気音のバイクは以前と同じだが、車の台数が大幅に増え、車とバイクが入り混り、時折ある信号機のところで横断しようとしても、完全に停止する車、バイクはほとんどなく、人が横断していようが、右折の車がスピードを緩めず曲がってくるのでまさに命がけの横断。見かけるベトナム人は大柄な人はいなく、しゃべり声は大きく賑やかでも、温厚な印象、だがいったん運転すると人が変わったように譲ることはなく我さきにと集団で先を急ぐ。二人乗り、三人乗りのバイクも多く隙間があれば割り込む。接触事故、転倒事故にならないのかと気がきではない。

私たち世代にとってベトナム戦争は青春時代とリンクして切り離せない出来事。車やバイクで猛スピードで走る人びとを見て異なる一面を垣間見たような気がして、戦争を戦いぬいた原動力は案外こんな所にあるのかも、と思ったりもした。

十八年の間に近代的なビルが立ち並び、車の台数も倍増していたが、今まで目についていた日本車、ドイツ車が見当たらない。中国産かと思っていた車はベトナムの国産車ということだった。新しいショッピングセンターにはユニクロ、ニトリ、マツキヨが勢ぞろい。街中のあちこちで赤の地色に黄色の星の国旗がなびいていた。